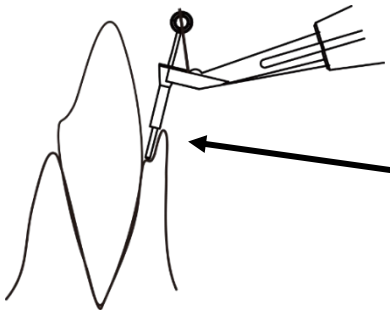
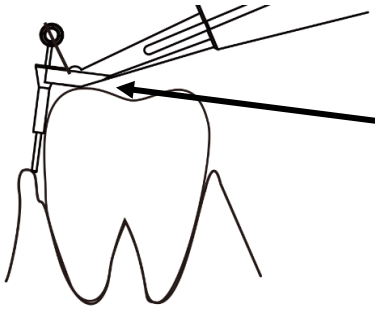
《 PerioPam をご活用いただく前に、必ずお読みください 》

■正しく計測を行うために



※ディスポヘッドのスリーブ底面を歯肉上部ラインに合わせるまで、挿入してください。浅く挿入したり、深く挿入したりすると正しい計測を行うことができません。

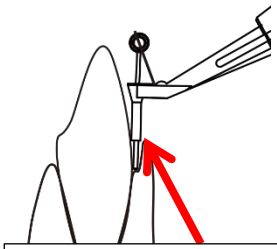
※スリーブ底面を歯肉上部ラインに合わせた状態で PerioPam を止めて、フットスイッチを押してください。PerioPam を上下に動かし続けながらフットスイッチを押すと、歯肉上部ラインに合っていない状態で計測される場合があります。



※歯に PerioPam が当たることで、正しく挿入できないことがあります。臼歯部など、挿入位置が見えにくい箇所については、ミラーにてご確認いただきながらご使用ください。

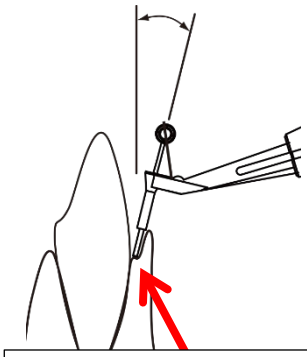
■痛みを感じる場合

一般的なプローブを使用したポケット測定の場合、前歯（1・2 番）など歯肉が薄く、また張りがある箇所は、痛みを感じる場合は圧力を弱めて計測するケースがございます。
また、挿入角度によっては歯肉側を押し広げてしまい、患者さんが痛みを感じることがあります。



薄い歯肉は押されると痛みを感じやすい

PerioPam は定圧で計測可能な製品であるため、圧力の調整を行うことはできませんが、歯牙側に向けて少し角度をつけて差し込んでいただくことで、挿入感の違いを実感いただけます。



歯牙側の方が痛みを感じにくい

従来のポケット計測方法と異なりますため、感覚に慣れるまでお時間がかかる場合がございます。
まずは手鏡等を使用して、ご自身の歯でご使用感をお試しください。その後、スタッフ様同士で練習をしていただきますと、実際の運用がスムーズに行えます。

QR コードから PerioPam の

使用動画をご覧いただけます。

https://www.narcohm.co.jp/products/pam/example.html

Q＆A

■PerioPam 本体、フットスイッチについて

Q:フットスイッチの役割を変更することはできますか？

A 初期設定画面にて変更出来ます。『決定、仮入力、出血、排膿、進む、戻る』の設定が可能です。

Q:計測誤差はありますか。

A:最大で 0.5mmです。

Q:歯肉縁下に歯石がある場合、PerioPam で計測できるのですか？

A:手用プローブよりは探知しにくいですが、ウォーキングプローブのようにして上下に小さく動かしながら移動させることで、歯石を確認することができます。歯石により低い数値となる場合もあるかと思いますが、スケーリング後再評価をして数値に大きな差異が認められた場合は、歯石による影響とお考えください。

Q:フットスイッチを押しているのに 7mm（一番大きい数値）が入力される。または、明らかに違う数値が出る。

A:値の決定はフットスイッチを押すタイミングです（画面に表示されるのはフットスイッチを離したタイミングです)。しっかり挿入する前にフットスイッチを押していたり、PerioPam を引き上げている途中でフットスイッチを押すと、計測値がずれる可能性があります。ディスポヘッドの白い先端を歯肉上部ラインに合わせた状態で手を止めて、フットスイッチを押してください。

Q:従来のプローブでの計測とズレがあるのだけれど・・・。

A:PerioPam は定圧で計測ができるため、手の感覚で行うプローブ検査とは数値のズレが出る可能性があります。PerioPam で計測する事により、誰でも正確な数値での計測が可能となります。

■『ディスポヘッド』について

Q:ディスポヘッドは消毒して再使用できますか

A:ディスポーサブルのため、再使用はできかねます。

Q:ディスポヘッドは医院で廃棄するのですか？

A:医院様にて、医療廃棄物として破棄して下さい。

■ソフト『ペリオスタジオ』について

Q:PerioPam と接続できませんと何度やっても出てしまう。

A:達人プラスでご使用の場合、ポケット画面が 2 つ立ち上がっている可能性があります。余分なポケット画面を閉じてからお試しください。

◆◆その他、ご不明な点は株式会社ナルコームまでお問合せください◆◆

Tel　047-364-7656　　受付時間：平日　9：00～17：00